

(郵便屋さんとしじじばば)



少し前のこと、とんでもない山の中の村に、それこそ往復、数時間かけて手紙やはがきをバイクに乗って配達する郵便局員の話しがテレビで放映されました。

今の世の中、インターネットの時代ですから、じいさんばあさんの家にパソコンがあって、メールを受ければ何のことはないのです。

しかし、悲しいかな、山奥の村の殆どのじいさんばあさんはパソコンを持っていませんし、持っていたとしても使いこなすことが出来ません。

でも、仮にじいさんばあさんがパソコンを持っていて、使いこなせるとしても、余り嬉しくはないような気がします。

非常に勝手な憶測ですが、じいさんばあさんは、近親者からの手紙やはがきを受け取るのも嬉しいのですが、それ以上に遠方はるばる郵便を配達しに来てくれる郵便局員さんと世話話しが出来ることの方が、遙かに嬉しいような気がするのです。待っているような気がするのです。

「あんれまあ、いつもいつも遠いところ、ご苦労様なこって。ま、なんもないが、ちょっと上がって、お茶でも飲んでいきんさいよ」

そんなわけで、おそらく郵便屋さん、その村に多い、そんなじいさんばあさん宅に郵便物を配り終える頃には、きっとお茶でお腹がタツプンタツプンになっているような気がしました。無論勝手な想像ではあるんですが。